

# 風の輪

## 身近に安心できるシヨートステイの場を 障害をもつ人の地域生活を支えるために

松村 昌子

「親が病気で倒れたら、どこで子どもを見てもらおう」「障害をもつ子どもの世話が大変なので、いつもきょうだいを我慢させてしまう」…知的障害をもつ人の家族の多くは、このような思いを抱えて生活しています。

大阪市ではこれまでシヨートステイ事業の受託が入所施設に限られていましたが、私たちはこの厳しい現実を前に、通所施設独自でシヨートステイを実施してきました。

### 放っておけない現実

A君は小学3年生。気持ちをうまく表現できず関わりが難しいため、お母さんしか世話をすることができません。そのお母さんが入院することになりました。お父さんもおばあちゃんもA君をみる自信がないので、以前A君が通っていた通園施設「淡路こども園」に相談しました。

知的障害をもつ場合、緊急時に困ることがよくあり

ます。家族はぎりぎりまで無理をし、せつば詰まると入所施設のシヨートステイに預けます。本人は知らない場所が不安なために、状態が悪くなり、結果的に家での生活が難しくなることもしばしば見られます。

### 本人にもプラスになるように

大切なのは、荷物のように子どもを預かるのではなく、緊急事態だからこそ安心できるように支援するこ

とです。そのために、何を手伝えれば家族が協力して乗り越えられるのか、一緒に考えることが必要です。

A君の場合はしばらく職員と園に泊まりました。なじみの場所と職員のおかげで、A君だけでなくお母さんも安心して療養に専念できました。また、お父さんやおばあちゃんとも相談しながら援助するうちに、2人とも自信をもってA君と関わられるようになりました。

### より身近に、気軽に

このような形でのシヨートステイは、家族の協力関係が深まるだけでなく、本人にとっても生活範囲を広げるチャンスです。また家族がほっとするためにも利用できます。

東淀川区には、淡路こど

も園と通所授産施設「ワークセンター豊新」があります。無理なく利用できるシヨートステイの場が近くに欲しいと、家族も職員も切望しています。

### 実現に向け第一歩

水仙福祉会が主催するチャリティーコンサートは、来春で8回目を迎えます。今回は「東淀川にシヨートステイの場を作ろう！」

を目標に、収益金を活かす計画をしています。多くの方にすてきな音楽のひとときを楽しんでいただき、目標実現に向けてあと押しをしてくださいますようお願いいたします（6ページに関連記事）。また、12月8日のイベントでもアピールをおこないます。

（ワークセンター豊新施設長）